

巻頭写真 青森市, 三内丸山遺跡の北の谷地区の模式断面

Standard outcrops of the north valley at the Sannai-maruyama site

三内丸山遺跡北の谷地区は、三内丸山層の全部層が揃っており、かつ自然堆積相と人為堆積相がともに谷底で観察できるため、集落の生態系の移り変わりを復元する上で重要な地区である。谷の斜面部では三内丸山層の陸域の堆積物を模式的に見ることができ、とくに下部層の下半部には円筒下層b式土器が多量に密集する産出状況が見られる(図1)。この土器密集層は谷底の中央部では道路跡の遺構とされる堤状遺構に連続する(図2)。この堤状遺構は人為的に積み上げられた細かな単位からなっており、しばしばニワトコ属主体種実遺体群の挟在が認められる。(辻 誠一郎 Sei-ichiro Tsuji)



図1 谷底斜面部の模式断面。



図2 谷底中央部の堤状遺構の産出状況。